

第3回男女平等参画推進委員会における市民意識・実態調査調査票（案）に対する指摘事項一覧

※頁、設問番号は0802委員会資料8「調査項目（案）の考え方について」

資料2  
西 東 京 市  
男女平等参画推進委員会  
令和4年8月30日

委員	頁	指標	設問番号	調査票	項目名	具体的内容	対応
調査全般、表紙、案内							
堀内委員					抽出について	アンケートは2,000人が対象でランダムに選ばれているということだが、例えば18歳から30歳までの男性が200人など、年齢の枠がある程度決まっているのか。	年齢に偏りがでないように抽出を進めています。
事務局			全体		フォント		UDフォントに変更
事務局			表紙		内容		表紙のレイアウト、記載内容を変更
事務局			案内		案内、スケジュール		削除し、最終ページに「女性相談」の案内を追加
1 回答者の属性							
星委員 中村委員	1		問1	問1	性別	3「その他」、4「無回答」のように選択肢を修正したほうが良い。（星委員より：前提として、『ご自身の性自認にもとづく性別をご選択ください』等との補足や説明の追加や、啓発も兼ねて性自認の解説がこの設問の直後にあると良い。）	設問文を「あなたの自認している性別をお答えください。」に修正、選択肢3「その他」、選択肢4「無回答」を追加いたします。 設問の下に「自認している性別」の説明を追加いたします。
中村委員	1		問2	問2	年齢	年齢の間隔が大きすぎるため、もう少し狭めても良いのではないか。	20歳代等、回収が比較的少ない年代は5歳幅で分類するとより回答者数が少なくなり、集計時に比率が上下しやすいことから参考値の扱いになる可能性があります。そのため、選択肢1は「18・19歳」とし、その他の選択肢は現行の表現で対応いたします。
笹川委員	1		問6	問6	子どもの有無	実態把握のためには、子どもの年齢まで把握する必要があると思う。	「いる」と回答した人の枝問として一番下のお子さんの年齢をうかがう設問を追加いたします。 問7-1 一番下のお子さんの年代をお答えください。 1 3歳未満                      4 中学生 2 3歳～小学校入学前      5 中学卒業から18歳未満まで 3 小学生                        6 18歳以上
堀内委員	1		問7	問7	介護の有無	（介護施設等の利用等）は削除した方がわかりやすいように思っ た。	（介護施設等の利用等）を削除し、「同居・別居は問いませ ん。」とします。

委員	頁	指標	設問番号	調査票	項目名	具体的内容	対応
2 男女平等参画の意識について							
事務局	2		問9、問10	問9、問10	固定的性別役割分担意識についての考え 男女の地位の平等感		調査票レイアウトの調査票レイアウトの都合上、問9と問10を入れ替えました。
堀内委員	2	★	問10	問9	男女の地位の平等感	ほかの設問では選択肢に「わからない」などの枠が用意されているがこの設問にはない。あえて、男性優遇、女性優遇、平等のどれかに該当するよう回答させる意図がないならば構わないが、「関心がない」「わからない」などの選択肢をつくることにより市民の各分野における関心の度合いや認識を把握することができるといったように思った。	男女平等意識についてあえていずれかを選択してもらうようにしています。また、この設問は現行計画の指標であることから選択肢等の変更はできないため、現行の表現で対応いたします。
3 家庭生活について							
山田委員	2	★	問11	問11	家事・育児・介護などに携わっている時間（平日、休日）	家事・育児・介護をまとめて聞くのではなく、それぞれ分けて聞くのが良いのでは。家事と育児は一緒でもいいかと思うが、介護にどれだけの時間がかかっていて働けないのか、家事と育児が忙しくて働けないのか、というところを深堀するには、ここは分けてもいいかと思った。個々にどれだけの時間がかかっているのか、家事と育児にどれだけの時間を使っているのか、ということがわかったほうが深堀して対策も立てやすいのではないかと。例えば、問7と問8の間に「介護にどれだけの時間を使っていますか」という設問を入れるのはどうか。	この設問は現行計画の指標であることから選択肢等の変更はできないため、現行の表現で対応いたします。また、回答者の負担（家事・育児・介護それぞれについて思い返しながら記入する）や設問数を考慮し、枝問の追加はせずに、性別等の属性のクロス集計で違いを把握いたします。
4 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について							
山辺委員	2		問12	問12	仕事、家庭生活、個人の生活の優先度（希望・現実）	選択肢7「仕事、家庭生活、個人の生活を優先」となっているが、優先と言えるのか。	国の表現に倣っています。「すべて優先」は国では希望で13.1%、都では33.7%とある程度回答が集まっており、西東京市でも同様の結果になるのか確認するという意味でも現行の表現で対応いたします。
高岡委員	2		問12	問12	仕事、家庭生活、個人の生活の優先度（希望・現実）	それぞれの項目に対しての割合を記入してもらうともう少し詳細にわかるのではないかと。	記入式は回答者の負担が大きくなるため、選択式で対応いたします。
事務局	2		問14	-	仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）のために必要なもの		前回調査の結果をもとに施策検討を既に進めており、今後の課題解決につながる設問に絞るため削除

委員	頁	指標	設問番号	調査票	項目名	具体的内容	対応
平委員	2	★	問15	問14 問14-1	育児休業、介護休業の取得経験、取得意向	この設問は何が聞きたいのかをまず教えていただきたい。例えば、育児休業は「必要がない」と答えた場合に、子どもがいなくて必要ないのか、もう状況が整っているから必要ないのか、状況によって「必要がない」の意味合いが変わってくると思う。これだと何を収集したいのか。「取得経験がある」という回答で経験があるということはわかるが、「必要が生じれば取得する」とした場合に、どのような理由で必要が生じたのかなど、その背景がわからない。	この設問は現行計画の指標であることから選択肢等の変更はできないため、現行の表現で対応いたします。 「取得には抵抗がある」「必要がない」と回答した人の背景を探る設問として、以下を追加いたします。 Q育児休業を取得しない理由をお答えください。（いくつでも○） 1 会社に育児休業制度が整備されていないため 2 職場が育児休業取得を認めない雰囲気であるため 3 職場に迷惑をかけたくないため 4 周囲からの評価や昇進に影響が出るため 5 収入が減少するため 6 仕事にブランクができ、自分の能力が低下するため 7 配偶者・パートナーが育児をするため 8 子の祖父母等親族に預けることができるため 9 保育所等に預けることができるため 10 育児や家事をするのは好きでないため 11 育児休業制度の対象ではないため 12 その他 13 わからない また、子どもの有無や一番下の子どもの年齢別のクロス集計をすることで回答のおおまかな傾向を確認することは可能です。
事務局	2		問16	-	男性が育児休業を取得しやすくするために必要なこと		前回調査の結果をもとに施策検討を既に進めており、今後の課題解決につながる設問に絞るため削除
5 就労について							
横森委員	3		問17	問15	管理職への昇進意向	女性が答えることを念頭に置くと、管理職になりたいか、なりたくないのかというだけでなく、非管理職だが非管理職の範囲で昇進したい、というようなところも入れてよいのではないかと。非管理職としての昇進について、選択項目のイメージとしては以下のとおり。 ①管理職に昇進したい ②管理職に昇進したくない ③非管理職の範囲で昇進したい（班長、チーフ等） ④分からない ⑤現在、管理職である	ご意見を反映し、1「管理職（部長、課長、係長相当職）に昇進したい」、2「非管理職（班長、チーフ等）の範囲で昇進したい」、3「管理職、非管理職ともに昇進したくない」、4「わからない」、5「現在、管理職である」に修正いたします。（選択肢を変更するため、経年比較はできません。）
山辺委員	3		問18	問16	今後の就労意向	問18は、男女平等参画推進とどのように関わってくるような結果が出てくるのか。	性別や性・年代別等の属性のクロス集計を行うことで就労意向の違いを把握いたします。

委員	頁	指標	設問番号	調査票	項目名	具体的内容	対応
6 女性活躍推進について							
堀内委員	3		問19	問17	女性が仕事をすることについての考え	設問が唐突すぎて不愉快に感じた。また、捉え方によっては女性差別を助長する記載のように感じる。女性活躍推進についておたずねしますとページトップにはあるが、誰もが女性活躍推進法のことを把握しているわけではないため、前置きが必要だと思う。例えば、「〇年のデータによりますと、妊娠出産子育てを機に離職する女性が何%います。」など前置きがあることで、現状を知らせつつ、このデータを向上させる為の設問だと解釈できると思う。	設問文を「あなたは、一般的に女性の働き方について、どのようにお考えですか。」に修正いたします。 設問前にデータ等を記載しすぎると回答誘導につながる恐れがあるため、あくまで現時点での考えをうかがいます。 「女性活躍推進についておたずねします」を「女性の活躍についておたずねします」に修正いたします。
笹川委員 山辺委員 鈴木委員	3		問20、21	問18、19	女性が出産後も同じ職場で働き続けるために必要なこと	問20では「家事、育児、介護などのために一時期仕事をやめた女性が再就職を希望する場合、・・・」となっているのに、問21では「出産後の離職」に限定されていることに違和感がある。不妊治療や妊娠、悪阻、出産に関わることで仕事を続けられずに離職せざるを得ない場合も考えられるのではないかと。問21の回答に「2 介護支援サービスの充実」などがあるため、設問文に「介護離職せずに」と足しても良いのでは。もしくは、問20と問21は「出産、育児のため離職」で統一してはどうか。	設問文を「女性が妊娠・出産、育児、介護などを理由に離職せずに同じ職場で働き続けるために～」に修正いたします。
堀内委員	3		問21	問19	女性が出産後も同じ職場で働き続けるために必要なこと	職場の体制を整えても、実際には直属上司の影響が大きいため、問16と同様に、選択肢に「上司の理解を促進する」が必要ではないか。	選択肢を以下のとおり修正いたします。 1～4 現行のとおり 5 女性が働き続けることへの家族・親族の理解・意識改革 新 女性が働き続けることへの上司・同僚の理解・意識改革 7～14 現行のとおり
事務局	2		問22	-	政策や方針決定過程に女性の参画が少ない理由		今後の課題解決につながる設問に絞るため削除（「男性優位の組織運営であるから」に回答が集中することが予想される）

委員	頁	指標	設問番号	調査票	項目名	具体的内容	対応
8 地域・防災について							
横森委員	4		問25-1	問22-1	地域活動に参加していない理由	理由について「関心がないから」や「負担を感じるから」などの趣旨の項目はなくてもよいのか。選択肢が増える場合は、1、2を「時間的余裕がないから」でまとめる、「3 経済的余裕がないから」や「6 家族の理解や協力がいいから」など、回答が集中しないと考えられるものを削除するなど可能ではないか。	「関心がないから」は、選択肢8「参加したいと思う活動がないから」で対応いたします。 選択肢1～3は「負担を感じるから」をより細分化したのになり、東京都の調査では「仕事が忙しいから」49.1%、「経済的余裕がないから」28.4%、「家事や育児・介護などが忙しいから」23.8%と回答が集まっていることから、こちらも現行の表現で対応いたします。 「家族の理解や協力がいいから」は東京都の調査では4.1%のため削除でも問題は無いかと思えます。
事務局	4		問25-1	問22-1	地域活動に参加していない理由		選択肢9「参加したことのある地域活動はない」は設問にそぐわないため削除
安田委員	4		問26	問23	防災分野で多様な人々の視点を活かすために重要だと思うこと	男女共同参画と防災というのはすごく大きなテーマであると思っており、「多様な視点」というのも、「男女共同参画の視点」によって「多様な視点」が生まれるということがあると思うので、ここは「多様な視点」という前に、「男女共同参画の視点」というようなかたちで入れていただければと感じた。	前回と同様に設問文を「男女平等の視点」とします。 選択肢を 1 防災分野に性別にとらわれない様々な視点を活かすことの重要性について～ 7 避難所設備に女性やLGBTなどの様々な意見を反映させる 8 備蓄品に女性やLGBTなどの様々な視点を活かす 9 性別にかかわらず様々な視点でのニーズを聞き取る と修正することで、男女平等だけでなく、多様な視点についても触れるようにいたします。
事務局	4		問26	問23	防災分野で多様な人々の視点を活かすために重要だと思うこと		選択肢2を選択肢9の表記と合わせて「性別にかかわらず災害や防災に関する知識の習得を進める」に変更

委員	頁	指標	設問番号	調査票	項目名	具体的内容	対応
9 性の多様性について							
星委員	4		問27	問24	性の多様性に関する言葉の認知度	LGBTQやLGBTQ+など色々あるということで「等」を付けたのだと思うが、啓発を兼ねるならば「等」は外したほうがより適切かと個人的には思う。加えて、性的マイノリティの説明文なのだが、こちらは一当事者としてはやや説明がそぐわないと思う点がある。今は「性的マイノリティとは、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアルとトランスジェンダーなどを意味します」となっているが、より正しく解説するとLGBTは総称なので、総称だということはこの説明文に加えていただきたい。トランスジェンダーについては、「出生時にわりあてられた性別と性自認（ジェンダー・アイデンティティ）が一致していない者」等という解説がよりの確だと思う。「心の性」という表現は、一見易しい表現だが、心ということに移ろい変わったり意思でどうこうなるものなのかという捉え方に繋がる恐れがあるため、あまり用いない方が無難である。	ご意見を反映し、「LGBT」に変更、説明文もそれぞれ修正いたします。
堀内委員	4		問28-1	問25-1	性的マイノリティの方が生活しやすくするために必要な対策	性的マイノリティという言葉は定着しつつあり、このように「性的マイノリティの方々」の方々はかえって仰々しいように感じた。「性的マイノリティの人々」でも良いと思う。	「性的マイノリティの人」に修正いたします。
事務局	4		問28-1	問25-1	性的マイノリティの方が生活しやすくするために必要な対策		・設問文を「～生活しやすくなるために」に修正 ・選択肢「民間企業や団体等に対して対応を働きかける」を追加
事務局	4		問29	-	自分の性的指向や性自認に悩んだ経験		市内の性的マイノリティの実態把握のための設問として前は使用していたが、改めて設問の狙いを検討し、今回は削除
10 あらゆる暴力（DV、ハラスメント等）について							
事務局	4		問30	問26	配偶者等からの暴力だと思うもの		選択肢10、14、15を追加
事務局	4		問31	問27	配偶者等から暴力を受けた際の相談機関の認知度		選択肢4を追加
事務局	5		問12-2	問33	職場等でハラスメントを受けた経験		パタニティ・ハラスメントの記載方法を変更
11 男女平等参画を進めるために必要な施策について							
安田委員	5		前回問32	問33	男女平等推進条例制定についての意向	前回結果で賛成が6割以上いたが、設問数削減という理由で削除して良いのか。	問33（西東京市が特に力を入れていくべき男女平等参画施策）の選択肢として「男女平等参画条例」の制定を追加いたします。